秋田職能短大　鷹巣技術専門校

2024

北鹿の学び舎から

修了生、在校生、学校の今 10

自己分析、企業研究の徹底を

令和六年九月、夏が終わり、学生にとって修了が見えてくる時期。生産技術科の二年生のほとんどが修了後の進路を決めているが、一人ひとりが目指す進路に向かってより良い結果を出すためには、早くから準備を済ませておくことが重要なのは言うまでもない。

そんななか、自身の目標である自動車メーカーから内定を獲得したのが花ノ木君である。彼は早い時期から進路について考え始め、明確な目標を他の学生より早く据えて努力を重ね、準備を進めてきた。だからこそ、この結果は順当なものであったと指導員たちも思っている。今は就職活動を終え、総合制作実習に精力的に取り組んでいる花ノ木君に、改めてこれまでの学校生活、就職活動について振り返ってもらった。

―これまでの学校生活で学んだことは。

「機械設計、機械加工、測定・制御の分野を学ぶだけでなく、学んだ事を実習で実践することで、即戦力となる技術を身に付けることができました。実習の時間が多いため溶接や機械加工実習などでは試行錯誤して進めることで自分に合ったやり方を見つけることもでき、また工業高校出身の生徒が多く、アドバイスをもらったり、共に作業するなかで学ぶことがあったりと、周囲の環境が私の成長につながっています」

―学校生活を通してあった自身の変化（物事に対する考え方の変化など）を感じたことは。

「私は秋田職能短大に入校する前は自動車の整備職に就こうと考えていましたが、本校で幅広く学んでいくにつれて機械加工の分野に興味を持つようになりました。何度も繰り返すうちに自分の技術が向上し、より良いものを作れるようになり、ものづくりの楽しさに気付きました」

―就職活動について意識していたことは。

「就職活動で意識したことは本校で私が興味を持ったことができる企業に就職するということです。また、高校の時から自己分析や興味のある業界は絞っていたので、企業を決める際には非常に役立ちました。自己分析と企業研究を徹底し、ミスマッチを防ぐことを念頭に置いて取り組みました」

―これから就職活動をする人へのメッセージを。

「何よりもまずは自分が納得できるまで自己分析や企業研究を行ってください。そして周囲のペースに惑わされず、自分のペースで就活を行い、後悔のない就活にしてください」

半年後には新社会人として秋田職能短大を飛び立っていく彼の今後の活躍に期待したい。春には、新たなスタートが待っている。

秋田職能短大　生産技術科

花ノ木　柊羽（しゅう）さん（二年）

秋田職業能力開発短期大学校
生産技術科
講師　野村　佑輔